



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り
令和4年9月29日
文責：校長 江上 知男



訓練の一コマ
(右端が御船署の方)

「不審者対応」避難訓練を実施！

9月27日(火)、御船警察署の協力を得て、避難訓練を実施しました。2学期のテーマは「不審者対応」です。

「学校は安全な場所であるべき」と強く思っていますが、多くの人の「集いの場」でもある学校で、それを維持するのは極めて困難です。本県ではありませんが、過去には凶悪犯が学校で事件を起こした例もあります。

そこで、「もしも」に備えて訓練を実施し、警察官に評価をしていただきました。実際にいただいた指摘は「不審者との距離が近い」「言葉をうまくつないで警官が来るまで間を持たせる」等々でした。難しいと思ったのは、「学校に入ってこられた方を『保護者なのか、地域の方なのか、それとも不審者なのか』を特定することです。私たちは、学校に来られる方の顔を全て知っている訳ではありません。不審者と分かれば対処の仕方も定まるのですが、そうでなければ対応が遅れる可能性が高いです。

今後、保護者や地域の方々に、本校職員から「大変失礼ですがどちら様でしょうか」という類いの声かけをさせていただくことがあるかも知れません。そんなときは、「学校の安全を守ろうと思っているのだな」とご理解いただき、どうか失礼をお許しください。ご協力をお願いします。

4年生が「認知症学習」を行いました

私の母親は、実は「アルツハイマー型認知症」です。持病もあり、老人ホームで生活しています。コロナ禍でなかなか会えないのですが、時々会うチャンスがあっても息子である私の名前が出てこないことがあります。介助がなければ生きていけない母なのですが、神様は「天真爛漫な人柄」だけは残してくれて、今でも周りの人を笑顔にします。私も説教されながら元気をもらって帰ります。いくつになっても「親は親」です。

さて、町社会福祉協議会のご協力をいただき、4年生が「認知症サポーター」になりました。認知症サポーターとは、認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域で認知症の人や家族に対して手助けをする人で、令和4年6月現在、約1,400万人が認知症サポーターになっています。

これは、高齢化に伴い認知症の人が増え続ける中、これまでのように介護施設や家族だけでは、認知症の人を支えることは困難という認識があるからです。また、認知症の高齢者も「介護が必要になっても住みなれた自宅、地域で生活し続けたい」という願いを抱いています。認知症はもはや特別なものではなく、日常生活の中や近隣の地域に当たり前存在しています。認知症の人も、そうでない人も、共に暮らせる社会にするためには、多くの人が正しいことを知り、普段の暮らしの中で認知症の人を見守り、できる範囲で手を差し伸べようとする意識が必要だと思います。

当日は、福祉の意味「ふ：普段の く：暮らしの し：幸せ」という考え方から「自分の周りに目を向け、できることを考え、相手を思いやる大切さ」を、認知症の学習を通して教えていただきました。真剣に参加した4年生は、学習を通して「手をさしのべようとする意識を持ってくれた」と確信しています。

昼休みが大にぎわい！

運動委員会が、昼休みに「鬼ごっこ」を企画して、一緒に遊ぶ時間を作ってくれています。今週は低学年です。遊ぶ方も、企画する方も、どちらも目がキラキラ輝いています。

本校の委員会活動は「主体的」です。新しい企画がどんどん出て、とても活気があります。子どもの力も高まります。



運営する運動委員会